

# 苦節四か月 ついに念願の 専用線接続に成功！ モデムの選択が 成功の秘訣？



## 第7回 専用線接続編

illustrator : Kaori Takahashi  
S市の原さん、私が書いてます。



専用線接続に成功。もう何も言わせないぞ。

FTP：インターネットでファイルをやりとりする仕組み。File Transfer Protocolの略。

LAN系：ここでは、「専用線で常時インターネットに接続されている、企業・大学などのインターネットユーザー層」ぐらいの意味。「LAN」は「Local Area Network」の略。

な、なな、なんだよぉ～、これえ？！と、とんでもない始まり方をしてしまう（あ、いつものこと？）が、今回の探検はいきなり肩透かし、じゃなくて大当たりなのである。

ま、こうなったら最初に結論を言ってしまうおう。専用線をつないだとたんに大成功。その瞬間、現場では「ええ～？」という声が上がったというわけ。あっさりうまくいきました。ちゃんと28.8Kbpsで接続してます。こんなに専用線っていいもんだったんだ。知らなかった……とイイことづくめ。

ということにはなったものの、しかし、これまでのことはナンなんだと思うと……あ、だんだん腹が立ってきた。

### ◎ 接続までの長～い道のり

話は去年にさかのぼる。当時、ラップトップを使った期待のPHS接続もうまくいかず、一方で「やっば、インターネットはダイヤルアップじゃあ堪能できませんよ。時間なんか気にしてるようじゃ、本来の使い

方じゃないっす。どんなファイルだって、ひと晩あれば、ほっといてもFTPできちゃいますからね」なんつー暴言を吐くLAN系のインターネットユーザーに出会ったこともあって、私としては「お前が偉いんじゃない！ ずえ～んぶ専用線サマのおかげだろ～が」などとあれていたのである。

そんな私を見かねたか、編集部の方でインプレス社内に専用線の口を用意して、なおかつNTTのほうへの申し込みの手配までしておいてくれたのだ（しかし、利用料金は私が払うのだ……当たり前か？）

年も押し迫った頃、NTTから工事担当者が突然やってきた。スツたもんだの末、自宅の電話番号が変わるといふオマケまでついて、ようやく専用線がつながったのだが、これから先が長かった。

まずはインプレス社内と私の自宅に同じモデムを用意して、いざ接続となったところ、大量の文字化けが発生したり回線が落ちたり。両側で電話をしながらいろいろ調整してみるが、結局9600bps程度のスピードしか出ない。いくらなんでもこの速度で

はウェブを楽しむというわけにはいかない。28.8Kbpsは無理としても、少なくとも24Kbps程度の速度はほしいものである。

しかし、NTTの契約書を見てみると、しっかり「通信速度は9600bpsまでしか保証しない」というようなことが書いてあるではないか。だけど、通常の公衆回線だとちゃんと28.8Kbps出るのに、なぜ？専用線って言ったって公衆回線くらいのコオリティはあるんだろ？と頭の中は「？」だらけ。

結局、「Macintoshとモデムの間」「モデムからコンセントまでの線」「専用線そのものの品質（これは自宅と最寄りの電話局の間、電話局間、電話局からインプレスまでの間、という具合に分けられる）」「インプレス社内の回線集合ボックスからモデムまで」のどこかに異常があるのではないかとということになり、その号では原因が特定できないままで、後日再挑戦……となる。

年が改まって、少なくともインプレス社内の回線には問題がなさそうなので、疑わしきは自宅の電源まわりか？ということになり、エアコンも冷蔵庫も、机の上の照明器具のコンセントも全部抜いた状態で再度挑戦したものの、事態は改善されないまま。

だが連載にアナをあけてはならぬとばかりDOS/Vのラップトップを購入してWin95に挑戦し、あやうくMS教に宗旨替えしそうになったり……。しかも、専用線のほうはどうなっていたかという、もちろん使ってもいないのに毎月料金を支払うというドツボ状態だったのである。

## ⑨ 専用線接続再挑戦を決意！

そして、また締め切りが迫ってきたある日のこと。

「ねえ、いくらなんでも、もうそろそろカタをつけないとマズいよ、専用線」と私。

「そうですねえ。でも簡単に線を取っ替えるってワケにもいかないんでしょ？」と例の副編（4月から編集長に……う～む）。

そうなのだ。最近専用線の工事が渋滞（都内に住んでいると「工事」とくると反射的に「渋滞」という言葉が出てくる昨今）してるし、どうやら申し込みも増えているらしい。先日などは請求書の中に「ご利用になっていない専用線は譲渡できます」なんつーチラシが入っていたくらいである。ええい、なんのイヤミだ！>NTT。

「もうWin95モノも連載したし、気もすんだでしょ？ サービスでイラストまで載せたからすっかり有名になったし……」

「うぐ。あのですねえ、確かにWin95はいいんですけど、あんなこと書かれて、僕はいったいどういう顔してMSに行けばいいんですか？」

「え？ そんなにひどいこと書いたかな～？」（ま、確かにキツイことは書いたけど、少数民族の正直な感想なんだもん）しかし、次のひと言で彼の関心は原稿の内容ではないということが判明した。

「僕はあんなに下ぶくれじゃないっすよ」

「う～ん。ま、僕は記事を書いているだけでイラストは別の人なんだけど～。まあまあ、イラストってのはデフォルメするわけだからさ～」

「いや、デフォルメっていうのはもともとがあってそれが強調されるわけでしょ？ だからそのもとがですね……」

「だからね、このまま専用線がつながらない状況が続くと、ずっとあのイラストが登場するかもしれないんだよ。いいの？」

「う～ん、そっすか？ じゃ、なんとか専用線モードのあるモデムをそろえて、取っ替え引っ替え、やってみますか？」

ということで、とりあえず実験してみることにしたのである。

## ⑩ 専用線専用モデムとは何か？

それから数日して編集部に行ってみると、いろんなモデムのカタログがそろっている。こんなに専用線モードを備えたことをうた



つながらないのはモデムのせい？ それとも専用線そのものの問題？



モデムを調達してくれるように副編にせまってみましたが……。



隊長「今月はモデムの機能を調べるように」  
隊員「ははっ、了解」

DeskPorte Fast TheV.34のカタログスペック	
標準価格	: 198,000円
適応回線	: 電話回線、2線式専用回線
通信速度	: 28800 ~ 300bps
通信規格	: ITU-T V.34/V.FC/V.32bis等
データポート	: シリアル(×1)、パラレル(×1)
本体形状	: 292mm × 165mm × 51mm
備考	: フラッシュメモリによるアップ デート可能。 専用線サポートパラレルポートによる通信をサポート。

カタログスペック: カタログに記述されている「製品仕様」のこと。  
熱暴走: コンピューターや周辺機器が熱によって動作がおかしくなること。特にモデムは熱暴走しやすい。

ATA: 電話に手動で応答するモデムのコマンド。

ATD: 電話をかけるモデムのコマンド。

っているモデムがあるとは知らなかった。

しかし、中にはこれまで使って失敗したものも入っているぞ(?)。そこで関係者が集まって鳩首会談である。

「いっぱいあるけど、どういう具合に違うんだろ?」と私。

「カタログスペック的にはなんか全部同じみたいっすね」と副編。

「ほとんどの機種にはRockwellのイシを使ってるはずだけど、モノによっては使えるコマンドが微妙に違うらしいし、DSPをオリジナルで起こしてるとか……」とは雪駄履きの専用線救援隊長、その実体はシステム管理者のI氏(本誌「たぁ!」好評連載中)。

「値段もバラバラだなぁ。5万円くらいからあるんだけど、これなんてスペック的には同じなんだけど20万円っすよ」と副編。

「じゃ、一番高いのから行ってみよ?」と、予算も考えずにこんな発言をするのは私ぐらいた。

時間も無いからという私の強引な意見が通って、一番値の張るmicrocom社の「DeskPorte FAST TheV.34」というモデムを編集部経由で頼んでもらうことにする。

それにしても、カタログでは同じように「専用線接続対応」と書いてあるのに、この価格の違いは何なんだろう。そこで、比較的低価格で専用線接続対応とうたっているモデムのメーカーに問い合わせてみることにした。

「隊員、今回調査するモデムとこないだのモデム、ちょっとマニュアルを調べて比較表を作ってくれない? でもって、どこがどう違うってのが表で分かればいいんだけど、分からない場合は専用線モードってのは具体的にどういうものなのか、なんつ~ややこしい話も出てくると思うんで、先方の会社にヒアリングしてみてもよ?」

「ははっ、了解」といつものように聞き分けのI隊員である。

数日して、編集部から電話がかかってき

た。くだんのモデムが届き、現在救助隊長のもとで熱暴走試験中であるとの報告である。どうやらモデムによっては長時間利用していると発熱してしまい、接続が不安定になってしまうものがあるらしい。いやしくも専用線対応というくらいだから、電源入れっぱなし、つなぎっぱなしの状態では使えないと意味がない。それくらいは当たり前だろうとは思いますが、またまた「遭難」してしまうのも嫌なので、あらかじめ念には念を入れる必要があるんだそうだ。

「DeskPorte FAST」のマニュアルが手に入ったので隊員も比較表の作成に入るといいう。しばらくして、途中経過報告のメールが入った。

隊員であります。

まずは、モデムのマニュアルをじっくりと読んでみましたが、残念ながら、カタログスペック上はほとんど違いがありません。

そこで、以前接続に失敗したモデムのメーカーのサポートセンターにメールを出したところ、次のような返事が来ました。

申し訳ございませんが、当社のモデムは全て専用線が使用できるとの記載がされていますが、専用線接続用のコマンドを持っていないため、実際には使用はできません。

もし、専用線で接続されるとすると、受信側で「ATA」、送信側で「ATD」を同時に入力する必要があります。時間的には、数十秒以内に双方が入力されないと接続されません。また、通信中に切断された場合、再接続の機能はもっていません。

矛盾している文章ですが、ようするに

- ・モデム同士の接続が切れても回復しない
- ・よって、正しい意味で「専用線に使用できる」とは言えない
- ・手動で毎回接続すれば、うまくいく場合もある



ということなのだそうです。とりあえずは、こんなところで。

なるほど……しかし、カタログにいつわりありかあ？ それはともかく先方の話によると、まずモデム同士のコネクションのところで問題があるとのこと。だから、あのまんま最初だけ接続できたとしても（実際の接続スピードは9600bps程度で、とても快適にウェブを利用できる感じではなかったが）もし回線が切断された場合、インプレスのほうに電話をかけて、互いに「せ~のっ」でコマンドをたたかないと復旧しないことになる。これじゃあ使いモノにはならんな~。

## 🌀 新しいモデムでテストしてみた

それからさらに2日くらい（この手の探検というのは意外に時間がかかる）ようやく社内テストでOKが出たらしく、救援隊長のI氏から電話がかかってきた。どうやら熱問題も普通に使えば大丈夫そうなので、早速実践テストしてみたいという。そこで夜の甲州街道をぶっ飛ばし、インプレスに向かったのであった。

技術部に到着すると、そこにあったのはクリーム色をした平べったいモデム。以前紹介したOKIの「PCLINK TA/DSU」よりは薄くて奥行きも若干小さいが、ほぼ同じくらいの印象。小型のモデムが多い昨今では例外的なサイズである。しかも、なんと電源はドでかいアダプターの外付けだ。

ちょっと目を引くのがパネルの上の部分。温度変化には注意が必要なようで「放熱のためこの上にもものを置かない下さい。直射日光のあたるところに置かないください。」というくどい言い回しのステッカーが張ってある。

これはのちのことになるが、下に某社

（国産）のモデムを置いてスイッチを入れっぱなしにしておいたところ、それが熱を持ち、結果的に上にあった「DeskPorte FAST」の温度が上がってしまった。その結果、通信速度が24.0Kbpsまで下がるという事態が発生。しかし、電源部は外付けなのに、それでもこんなに発熱するなんて、中はどうなってるんだ？

話をもとに戻すと、このモデム、価格はなんと20万円！ いまどきのモデムの3倍の値段である。しかし、カタログスペックだけ見る分には、ほかのものとそれほど変わらないし、部品だって、そんなに違ったものを使っているとは思えない。ボックスの裏を見ると「この製品は以下の国から1つあるいはそれ以上のパーツを用いて、アメリカ合衆国でアセンブルした」というステッカーが貼ってあって、マレーシア、シンガポール、香港という国名が書いてある。部品としては日本だってそれくらいのクオリティのものはできるはずなんでは？

実は、明後日からの米国出張のため家に帰って洗濯しとかないと着ていくものがないというI氏とモデム一式、さらにいざという時のための工具を積んで、インプレスから自宅へと戻る。その間、車中で今回の接続方法についてのレクチャーを受けるが、私のほうは運転しながらということもあってなかなか頭に入らない。しかし、かいつまんで言えば次のようになる。

まず、自宅に設置するモデムとインプレス社内設置のモデム。これについては原則的にいつも電源は入れっぱなしである。今回はダイヤルアップ接続と同様の接続なので、基本的に隊長宅のパソコンの電源を落とすことはあってもインプレス側のPPPルーターが落ちることはないから、自宅側を発呼側に設定し、そのためのコネクトスクリプトを自宅のMacのConfigPPPの中に書く。もちろん、通常のダイヤルアップ接続のときに入力しておく「電話番号」や「モデムユニット」は空欄だ。



モデムの上には物を乗せないように！



専用線接続のため、技術担当のI氏といざ自宅へ。

コネクトスクリプト：ネットワークに接続するためにやりとりする文字列。

ConfigPPP：Macintosh用のソフトウェア。モデムでインターネットに接続する際に用いる。本誌CD-ROM収録の「FreePPP」などがこれにあたる。

モデムユニット：モデムを初期化するためのコマンド。ConfigPPPの設定画面に出てくる。「ユニット」はイニシャライズ（初期化）の略。



アメリカのFM放送だってばっちり聞ける!



苦節4か月。やっと専用線がつながった。

NinjaTerm : Macintosh用の通信ソフト。フリーウェア。URL  
ftp://ftp.ijj.ad.jp/pub/published/oreilly/nutshell/ujjp/mac/ninjater  
m-0961-32.hqx

RealAudio : プログレッシブ・ネットワーク社が開発した、インター  
ネット上でリアルタイムに音声を送るためのソフトウェア。

注意点としては、一旦何らかの理由で回線が切断されてしまったら、30秒ほど待つて、それからおもむろにConfigPPPを再度接続するというだけの「はず」だそう。

Real Audioのつなぎっぱなし状態に挑戦してみたが.....

はやる気持ちを抑えながら、無事自宅に到着し、救援隊長がセットアップにかかる。

回線のほうは、何か月も前に壁のコンセントから10メートルの延長コードで窓際の机のところ引張ってきたまま。また、電源も床に転がっているテーブルタップから取るという具合に、通常の利用状況そのままのスタイルでやってみることにする。

まずはMacPPPを動かす前に、「NinjaTerm」での接続を試みる。通信速度は最高スピードの57600bpsにセットしてキーをたたくと、おおっ、ちゃんと接続するではないか! しかもモデムの液晶パネルにははっきり「28.8」の文字が!

いいぞいいぞ。よし、次! ConfigPPPのスピードをこれも57600bpsにセットし、コネクタスクリプトを入力して「Open」ボタンを押すと.....やったあ! なんとすんなり28.8Kbpsで接続できてしまった。なんだあ~、回線品質の問題かと思ってたけど、結局モデムの能力の問題だったのね。

で、ウェブにアクセスしてみると、ちゃんと1.6~2.0Kbpsくらいはでるではないか。さすがに同期64Kほどのスピードはないが、それでも十分。

「まあ、3.4Kのアナログ線だとこんなものでしょうね。これ以上ってことになる、64Kの線にでもしてもらわないと.....」とのI氏のお言葉に、「いや、もうこれで十分でございます」状態の私である。

やった~、ついに専用線か、と思ったとたん思い出したのが長年の夢であった「RealAudio」のつなぎっぱなし状態。なんとって電話料金を気にしなくていいわけだから、これで大手をふってアメリカのFM局

の同時放送なんぞが聞けてしまう。

そこで、早速「AudioNet」(<http://www.audionet.com/>)経由で私の好きなテキサス州はダラスのFM局KZPSへ接続だ。ホームページにたどり着き「Listen」ボタンを押すと.....見事、あちらの生放送が聞こえてきた。しかし、やっぱり内蔵スピーカーじゃ音が今いちだな。ちょっとした外部スピーカーを付けるくらいの価値はある。早速明日にでもアキバに出かけて.....なんて考えながら、画面をスクロールさせようとすると、なんとなくMacintoshの動作も遅いような.....げんげん。モデムの接続が切れてしまった!

そこで再度接続を試みるが、これは簡単にコネクトする。あ~、よかった.....が、RealAudioはどうなる?

「やっぱり、ライブフィードみたいなストリームのデータには弱いみたいですね。CPUパワーの問題もあるんじゃないかな」とI氏。そうこうしているうちに、時間はもう終電だ。米国出張に備えて洗濯という事情も気になってか、救援隊長もそわそわ...。そこでRealAudioは課題として残るが、とりあえず専用線接続完了。回線設置以来4か月目にしようやく開通ということで当日はお開きになったのだった。

専用線接続後  
新たな問題が.....

翌日、今回見事に専用線接続を可能にした「DeskPorte FAST」の代理店への調査報告が隊員から届いた。それによると、

電話で問い合わせしてみたところ、

・当社製品で専用線をサポートしているのは「The V.34」だけである

・他社製品でも、マニュアルに接続方法の記述が無いものでは、おそらく接続できないのではないか?

ということだそうです。が、「専用線をサポ

ートしているモデムとそうでないモデムの違いとは？」という部分のお話は、残念ながら聞くことができませんでした。  
とゆーわけで、どうにもはっきりとしません。専用線は、まだまだシロートさんのおえるモノでは無い感じですね。

ということである。

どうやら今回の結論としては、カタログに専用線対応を書いている機種でも、専用線モードのコマンドをサポートしていないものもあるので注意すること。そして、回線特性への対応力に優れたものを選ぶということになるだろう。しかし、対応力についても、実際にはやってみるまで分からないから、やっぱり実績のあるものを選ぶしかないのかな～？

さて、ここで後日談。その後、NetscapeのキャッシュをRAMディスクに設定してあったことを思い出して、普通どおりにハードディスクに設定を戻してしてみたが、それでも急に画面をスクロールさせたりすると落ちてしまう。同時にほかのプログラムを動かそうとすると、ファインダーの動きも遅くて、とても実用にはならない。これはもうマシンの限界か？PowerPCに行くしかないのか？

ということはさておいて、とにかくダイアルアップで接続していた時に比べれば環

境が抜群に向上したのは事実である。Eudoraの設定も5分に一度メールボックスをチェックするようにしておき、ウェブをブラウジングしながらそのままお茶……という優雅なこともできるし、大きなファイルも平気で持ってくるができる。

だが、現実には一日中ずう～っとマシンを接続しっぱなしというわけにもいかなかった。というのは、会社などでは問題ないかもしれないが、パソコンのファンの音というのは意外と大きくて気になるのである。特に私のようにワンルームの部屋に住んでいると、住宅問題にも発展しかねない恐ろしい予感がする。それに、省資源ということを考えると、結局、長時間のお出かけや眠る時にはスイッチを切るのが正しいだろう。

結局、今回の接続は専用線とは言っても、ドメイン名をもらってサーバーを立ち上げるわけでもなし、ダイヤルアップと何ら変わるところがない。が、それでも気分的にはずいぶん変わった。これでますますインターネット系のお仕事にも身が入ろうというものである。

というわけで、インターネット探検隊、次回以降はこの環境を生かして、サイバースペース方面の探検に出かけたいと思う。乞うご期待、という前向きな姿勢で今回の探検はおしまいです。



パソコンの音は意外と気になるもの？

RAMディスク：メモリーをディスクの代わりに使用する仕組みのこと。ハードディスクに比べてアクセス時間が速くなるが、使用できるメモリーは減ることになる。



今回、使用したモデム 「Desk Porte FAST The V.34」  
標準価格：198,000円  
商品提供：(株)ヒューコム  
問い合わせ先：03-5306-7333





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)